

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0370400178		
法人名	社会福祉法人 全人会		
事業所名	グループホーム水沢コスモス		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市佐倉河字十日市85 (電話) 0197-51-2151		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年 3月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	23 人	常勤 17 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6.9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建て, 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,340~20,790 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(3月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低 73 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥州病院、木村医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、社会福祉法人全人会の運営する事業所であり、同じ敷地内に同法人の運営するデイサービスやもう一つのグループホーム「アリス」と隣接して設置されている。これらの事業所とは相互に支援する体制が整っており、夜勤の兼務や行事の合同実施などで、安定した職員体制や利用者の楽しみにつながっている。田園風景の中にあり、近くには川も流れるほか、その川に面して庭園を備えた温泉施設などもあり、利用者の散歩時等には清々しさを感じられる環境である。法人理事長が医師であることや、医療機関との丁寧な情報連携を背景として、日常的な健康管理にも安心感がある。さりげないながらもしっかりとした職員の見守りの中、利用者は一人ひとり自分らしく自由に振舞っている。利用者の介護度も高い状況にあるが、利用者の個性を見失うことのない姿勢が今後とも期待される事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「災害対策」としての、近隣との協力体制づくりは、これからも引き続き検討することとしており、その他取り組みを期待したい事項については、すでに取り組みは始めていることから、今後その状況を見守ることとしたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が作成した自己評価票(案)について、全職員がそれぞれ自己点検・振り返りを兼ねて、目を通し意見等を出し合い集約し成案として作り上げ、職員の理解・共有を図っている。この毎年の評価・振り返りを通して、全人的なケアの意識が定着しつつあるとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2カ月に1回の開催には至っていないが、年に4回(ひな祭り・全人会祭り・月見会・クリスマス会)の祭典に併せ、利用者、家族、地域住民の参加するなど、思考を凝らした運営推進会議となっている。直近では、外部講師による「生活習慣病」についての講演を行い、利用者や家族、地域の方々から好評を得ている。今後はホームの運営に関連するテーマによる開催をしていきたいとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時など多くの場で気軽に相談等が出来るように声をかけをしたり、市町村や第三者委員も、広く相談できる機関であることも説明・お知らせしている。質問や要望等ある場合には、運営に反映できるよう真摯に受け止めるよう職員との意思疎通を図っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の外出に気づかないときは、近所からホームへ連絡があるなど地域による見守りの関係が築かれている。また管理者も地元町内会や振興会の会員として地域活動に貢献している。法人主催する夏祭りなどに地域の方々を招待するほか、地域敬老会など諸行事に参画し、ボランティアも積極的に受け入れるなど、地域交流の輪を広げている。</p>

2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年5月25日

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人権尊重とノーマライゼーションの精神を基調とし ①地球環境を守りながら、国際的視野に立ち行動します。②地域住民のために最善の全人的保健・全人的医療・全人的福祉・全人的介護サービスを提供します。③受けての方々の生命及び尊厳を守ります。」を掲げ、利用者と共に生きることを心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営推進会議や日々の申し送り、毎月の会議等において、理念(全人的ケア)に沿った方向性の決定など、職員は常に理念を意識しながらケアに当たっている。特に、近隣の小学校の総合学習を通して、地域に対してもこの理念の理解促進・共有を図るべく、これまでの実績をもとに引き続き取り組みを進めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の外出に気づかないときは、近所からホームへ連絡があるなど地域による見守りの関係が築かれている。法人が主催する夏祭りなどに地域の方々を招待するほか、地域敬老会など諸行事に参画し、ボランティアも積極的に受け入れるなど、地域交流の輪を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が作成した自己評価票(案)について、全職員がそれぞれ自己点検・振り返りを兼ねて、目を通し意見等を出し合い集約し成案として作り上げ、職員の理解・共有を図っている。この毎年の評価・振り返りを通して、全人的なケアの意識が定着しつつあるとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回の開催には至っていないが、年に4回の祭典に併せ、利用者、家族、地域住民が参加するなど、思考を凝らした運営推進会議となっている。直近では、外部講師による「生活習慣病」についての講演を行い、利用者や家族、地域の方々から好評を得ている。今後はホームの運営に関連するテーマによる開催をしていきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのイベントへの参加など(イベントに併せた運営推進会議)市担当者との連携はとれており、運営について相談したりアドバイスを頂いたり、介護保険の更新手続き、ホームの空き室状況等の連絡連携も行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや健康状態については、電話やメール、家族の訪問時に報告している。法人が発行する広報「全人会クラブ」では行事、運営推進会などの様子を写真付きでお知らせしている。預かり金等金銭管理については、誤解やトラブル発生の危険性を回避するため、基本的に行なわないとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時など多くの場で気軽に相談等が出来るように声がけをしたり、市町村や第三者委員も、広く相談できる機関であることも説明・お知らせしている。質問や要望等ある場合には、運営に反映できるよう真摯に受け止めるよう職員との意思疎通を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜間勤務を含めて、全職員が利用者に関わりを持てるような勤務体制が工夫され、止むを得ず異動があっても、馴染み関係が保たれていることから、ダメージは最小限に抑えられるとしている。新任職員については、各種マニュアルを使い管理者等が講師となって、スキルアップのための研修期間を設定し、サービスの質の向上を図るための研修を実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム全国大会への発表資料づくりでの調査・考察などは、全職員の総合的な研修の取り組みの機会として、職員の資質向上への契機となっている。今年度は発表の機会を得なかったが、21年度は参加を予定している。勤務年数に応じ基礎研修受講や職員の資格取得への後方支援にも努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア研究会や病院での勉強会など、同業者とのネットワーク活動に参加し相互交流を行っている。また法人(事業所)のホームページにも、最新の関係情報を掲載しており、その情報を通しての交流も行われている。全国のグループホーム協会にも加入し広く情報の収集に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員がケアマネジャー同行のもと、本人の情報を得るために必ず自宅訪問して面接したり、家族と会ったりして馴染み関係をつくったうえでサービスを開始している。また入居時調査票を記入していただくなど状況の把握につなげている。併せて、利用者の自宅での様子をビデオに撮り、全職員で見えることを通して、その情報共有やその後の支援につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の行為や言動等の全てを肯定するのではなく、利用者の思いは受け止めながらも、厳しい態度や仲介など、状況に応じた対応をしている。管理者も「健全な精神活動では、利用者に叱られたり、職員が反抗したり、それを他の職員がとりなしたりすることも重要である」という指導も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの思いや悩みは急かせずに、関心を寄せながら受容することを心得としている。利用者家族の希望は「入居時調査票」に記入してもらい、その後「入居後調査票」を職員が記入している。また日々の様子も利用者の言動に私見を加えることなく「ありのまま」を記録するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネや担当者職員が窓口になり、入居時調査票を参考にしながら、利用者がより良く暮らすための意向や希望を聞き、心身の状態等を職員全員でカンファレンスしアセスメントしている。また、利用者・家族の訪問時には、介護計画を検討いただき、作成された介護計画は、利用者・家族に説明・納得を得て実践している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なカンファレンスを開いて職員全員でモニタリングを行って計画を見直すとともに、状態変化が生じた場合は速やかに家族や医師の意見を求め、利用者の現状に即した計画となるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩やドライブ、行きつけの理美容への同行など、利用者の思いや希望に沿った外出支援に努めている。包括支援センターや入居前担当ケアマネからも利用者の情報を得るなど、その連携を図って、その支援に役立てている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっており、通院の同行は家族を基本としつつも、緊急等の場合には、職員の同行にも柔軟に対応している。家族同行に際しては、利用者の状態等を細かに記載した「医療機関受診時の情報票」を持参させるなど医師・家族との連携にも努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携体制上の重度化した場合における対応に係る指針」を作成して、家族に説明・同意(2週間を超える入院の場合は原則退所)を得ている。終末期等への対応については、利用者の変化(段階)を見ながら、家族等とも話し合いを重ね職員とも情報を共有しながら、その現実的な対応を考えていくこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「入居時調査票」から、「何に傷つくのか」「何を誇りにしているか」などを把握して、利用者それぞれに応じた声かけや接し方等に十二分に心して個人の尊厳に努めている。外出先での会話なども、利用者の個人情報には絶対に触れないように、管理者から常に注意するなどプライバシーの保護には万全の配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「入居時調査票」から「生活リズム」「どんな過ごし方を望むか」などを把握して、毎日の起床や食事、入浴などに、それぞれの時間やペースで過ごすことができるように支援している。一生一度の人生で、より人らしい過ごし方を追求するため、本人・家族の情報を細かに集約して、その支援に努めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付けや配膳・下げ膳、食器拭きなど、出来る方には手伝ってもらっている。肉や魚の日を取り入れ、食品特有の味を楽しめるようにしたり、旬の食材を取り入れたり、散らし寿司、ぜんざいなど、食べる楽しみを増やすように努めている。また外出ついでに外食して気分を変える工夫もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日、午後に事業所の風呂での入浴を基本としているが、事業所もすでに7年を経過、利用者の状態も大きく変化し隣接のデイサービスセンターの機械浴に頼る状況になってきている。入浴の苦手な方には、タイミングを見て入浴誘導をするなど粘り強い支援で清潔の保持・入浴の習慣化にも努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「入居時調査票」の「生活歴」「趣味・特技」などを参考にしながら、買い物や誕生会、パーティーでの発声など、それぞれの役割をしてもらっている。畑・野菜づくりや散歩、ドライブなどで楽しみ・気晴らし、生活のメリハリやほどよい疲れを感じて毎日が過ごせるように努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春は桜の花見、秋は紅葉狩りなど、天気や利用者の気分と相談しながら積極的に出かけたり、普段は温泉施設等まで散歩するなど、生活の時間割等制約はなく、好きなときに出て楽しく気晴らしができるように支援している。冬は余り外に出たがらないことから、今後とも目を外に向けてもらう工夫をしたいとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「鍵をかけない」という原則を徹底して、ケアに取り組んでいる。玄関には鍵はあるものの、夜間だけの施錠で日中は「鳴り物」で来客等の出入りを確認している。居室には鍵の設置はなく、勝手外出(徘徊)する利用者もいるが、抑制はせずに、落ち着き安定するまで、見守りや声かけなどでじっくり対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年1回は、隣接するデイサービスセンター、グループホームと一緒に避難訓練を実施し、施設間の協力体制は構築されている。今後は、近隣との連絡体制や協力のあり方について、具体的な役割等についてのネットワークづくりについて検討していきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受けながらの献立となっている。時には利用者者と相談しながら味付けや食事形態を工夫をするなど好みに応じた支援もしている。健康面の必要に応じて医師と相談したり、アルブミン値を測定するなど、その結果に基づき医師からの助言を受け、健康状態を勘案した塩分や水分等の摂取となっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い天窓から光が差し込み、リビングから空や雲などの流れも見える。食卓テーブルや椅子のほか、ピアノやテレビ、ソファや畳張りの腰掛椅子なども置かれ、独り又は話し相手と複数など、それぞれの思いで過ごせる場所も確保されている。四季の花や木々など窓から自然を感じながら過ごせるような共有空間の工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、布団、着替え程度を持ち込んでいる方、その他に整理タンスやソファやテレビなど、楽しむものを持ち込んでいる方、絵葉書等を何でも趣味的に収集して部屋一杯に綺麗に並べて過ごす方など九人九色。利用者が、それぞれに自分らしく個性豊かに過ごしているのが実感される。正に九人九色、9部屋それぞれに9色の表札が綺麗に掲げられている。		